

「社会教育研究における方法論の検討」第10回研究会のご案内

1. 第10回研究会のねらい

これまでのプロジェクト研究では、「方法論」の検討が、そもそも「社会教育研究とは何か」という大きな「世界観」の検討につながっていることを明らかにしてきた。今回の研究会では、「社会教育研究方法の新たな挑戦（その1）」と題し、社会教育研究／研究方法の「世界観」を解きほぐしながら、社会教育研究方法の課題を議論していきたい。今回は2014年12月にフランス・リール第3大学で行われた「第6回ライフヒストリー研究日仏国際シンポジウム」での発表者に報告頂きながら、特に、伝記的手法やナラティブ、日常性や再帰性といったものをキーワードに、社会教育研究方法の「これまで」や「これから」を話し合いたい。

2. 期日

3月5日（木）13時00分～17時00分

3. 会場

神戸大学発達科学部 B-210室（門を入れて左に回り込んだ正面の学舎の2階にあります）
（兵庫県神戸市灘区鶴甲3-11）

※立地および交通アクセスについては、下記案内を参照下さい。

<http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/about>

4. 報告題目および報告者

「フランス語圏における、伝記的手法を用いた成人教育研究の動向と理論
—臨床心理学との交流がもつ意味—」

末本 誠（神戸大学）

「社会教育研究における民俗学的アプローチの可能性と課題

—日常性と再帰性への着目から—」

安藤 耕己（山形大学）

「社会教育職員として成長するということ

—ナラティブという観点から明らかにしたこと／できなかったこと—」

松本 大（弘前大学）

5. 連絡

(1) 出欠ご連絡のお願い

準備の都合上、3月3日（火）までに、下記松本までお伝え下さい。

(2) 次回以降研究会開催予定

第11回研究会は4月に東京で開催予定です。調整次第、すぐに学会HP上で通知いたします。

【問い合わせ先】

松本大（弘前大学）dai*hirosaki-u.ac.jp（*を@に置き換える）